

「最低しじやなくて」「最高し
 木造中学校 三年 小山内 那奈
 今年三月。新型コロナウイルスが流行し始
 めました。正直私は「怖いけどすぐ収まるで
 しょ。青森県にも来ないだろうし。」と思っ
 ていました。しかし「新型コロナウイルスの感
 染者は日に日に増えていきました。
 四月。例年より少し遅い新学期が始まりま
 した。しかし「入学式に参加できるのは一年
 生と保護者のみ。だから「進級したぞ！」と
 いう気持ちにはなれませんでした。
 いつもおぼろげに「やめたのに」という
 ものが中止に「たり」できなくなりました。
 その中でも私が一番傷ついたのは中体連県大
 会がなくなっってしまったこと。一年生の
 時から二年半、県大会で勝つために練習して
 きたので、とてもショックが大きかったです。
 っ、自分で自分達が三年生の時に「中学校最
 の年なのに」。そう何度も思いました。
 せもだからこそ、プラス思考で考えてみよ

うと思いました。

まっとうと中学校最後の年にコロナが流行した
のは十年先も二十年先も覚えていいる。ある意
味印象深い年になるのではないか。県大会は
なくあった。それが今まで頑張ってきた
ことは一生忘れないだろう。そう考えるよう
にします。

卒業まであと半分です。卒業する時には
「コロナだ」だから全然おもしろくない最低
な一年だった。たいじやなくて「コロナだ」た
け

始め「ちゃ楽しんで最高な一年だ」と思
いたいです。そのためにも目の前のことに全
力で取り組み、最後までくいの残らないう
に、残りの時間を楽しみます。